礫陵新聞

発行所
若松高校新聞部
北九州市若松区小石
発行編集
若松高校新聞部
印刷所
吉田印刷所　㊫5424

行事予定

7月20日	終業式	
9月1日	始業式	
5・6日	文化祭	
14日	修学旅行	

役員改選から二ヶ月

新執行部のその後……

生徒会執行部の役員改選が行なわれてから早、三ケ月、バトンを受け継いだ七名の新役員達も「どうやら仕事にも慣れてきました。」と言うところだろう。そこで今回は、執行部の現在の活動についてと、先に行なわれた生徒大会についてを取り上げてみる事にした。

現在、執行部が力を入れて取り組んでいる問題は、先に行なわれた生徒大会でも審議された〝同好会のクラブ化〟という事である。

この問題は、一般生徒のあいだでは、生徒大会の後に日を新めて行なわれた投票によって、

書　道＝賛成九二六票
　　反対二五一票
　　無効四十六票
サッカー＝賛成九九八票
　　反対一八一票
　　無効四十六票

という結果で、可決された。

この後、職員会にこの問題を提出し、ここで承認されれば〝同好会のクラブ化〟は実現されて、「書道部」「サッカー部」が成立する事になる。会長としては、絶対に、この問題が職員会で承認されるように努力したいと語っておりこの問題に賭ける気力が充分にうかがわれた。十五日に行なわれた若戸大会の準備にも毎日忙しいそうに働き回っていたし文化祭については続一テーマを決めるなど新しい試みをみせている。

執行部は、この他にも多くの問題と取り組んでいるが、生徒に訴える力、また、リードしていく力は弱いようである。任期のある限り、会長の言う「行動」ということばのもとに、生徒会をより一層発展させて欲しい。

右…力強いスポーツバスケット、とられてたまるかの根性で…。左…記録に挑む姿〝やった〟の声のあとは拍手の渦

闘士は燃え立ち

―クラスマッチ―

去る六月十六日に予定されていたクラスマッチは、雨のため十八日に延期されたが、当日も朝からぐずついた天気のもとでどうにか決行された。

八時五〇分、生徒全員が体育館に集合し開会式が行なわれた。

一開会宣言　二校長先生挨拶
三クラスマッチに関する諸注意

といった順序で式は終わり各自、出場する種目へと足を向けた。

まず最初に体育館一階では剣道競道、二階ではバスケット、運動場では陸上競技が行なわれた。陸上競技がもう少しで終わるという頃に雨が降りだしたが、競技の方は続行された。

陸上競技の後、ソフトボールが小雨の中で行なわれたが、途中雨がひどくなったため、一試合目で中止された。その頃室内では、バレーボールが行なわれており、ソフトボールが中止となったために生徒の目はバレーボールに集中し体育館はいっぱいに声援が、響きわたっていた。

どの試合を見ても試合終了後の選手の顔には、正々堂々と戦ったという満足感が汗とともに、にじみ出ていた。

一方クラスマッチに対する不満の声もあちらこちらで聞かれた。その内容としては、

・もう少し練習時間を多くしてもらいたかった。
・練習場所、道具が思う様に使用できなかった。
・授業をつぶしてまでもクラスマッチをしなくてもよい。

というような事である。

尚、優勝は次の通りである。

バレーボール
男子　一年　三・四組
　　二年　三・五組　六・七・八組
　　三年　八組　一・九組
女子　一・二組
バスケット（男子）
一年　三・四組
二年　六・七・八組
三年　九組
総合の結果は次の通りである。
（ソフトボールを除く）
男子　一位　三・四組
　　二位　七・八組
女子　一位　一組
　　二位　五・六組

どう過ごす夏休み

夏休みといえばいい先生がふえているとのことだが、若高にもそのきざしがみえてきたように思える。各学年ともまだはっきりは決まってないようだが「一応今年はしない」ということになっているようである。そこで生徒に課外の現状や意義などについて声をきいてみることにしょう。去年課外を受けた訳ですけれどなにか感じたことありますか。

―全然成果がなかった。自分自身がやる気をださなくては、何をしても同じだと思う。

―課外があっても予習しないし答えを写すだけだから無意味だ。

―課外自体はいいことだと思うがクラス分けが酷に落ちない。たった一回のテストでクラスを分け上位の方の人達だけに、数学を受けさせた。これじゃなんのための課外だかわからない。その事を聞いただけでやる気がなくなった。などと課外に対する不満がそのほとんどであった。また、一年生に聞いてみると

―課外なんてしたくない。夏休みぐらい自由にしたい。

―やりたい者だけがやればよい。

など課外反対説を述べていた。

しかしその反面「自分だけでは全然勉強しないが、課外があると少しでもするからよい。」「課外がないかわりに宿題が出るなんて、それなら課外があった方がよい。」などの課外賛成者もいたが結局は自分の勉強に対する甘さの逃げ道に課外の名をもちだしているにすぎないのではないだろうか。だから、課外のない今年の夏休みこそ、課外の意義を考えいつもよりももっと有効に使ってほしいものである。

〔訂正〕

先号の新任紹介において、市来先生の御出身校が、北九州大学教育学部、また、筌口先生は門司高校となっていましたが、それぞれ九州大学教育学部、門司商高校の誤りでありましたことを訂正し、おわびを致します。

若高戯評
114回　公害？

無関心から脱皮して

六月十九日に行なわれた生徒大会。一般生徒の間では、議題についての話より雑談が多い。会の方は発言者が少ないために、幸か不幸か進行は早い。しかし、会が進行されて行くにもかかわらず雑談はやまない。進行係からの注意もその場限りで一向に効き目がなくやがて、あちらこちらでささやきが聞こえてくる始末である。議題の風紀・同好会のクラブ化については、生徒に一番身近な問題であるにもかかわらず、発言者は少なく限られた人達、中でも、これからの生徒会の中心にならなければいけない二年生からの意見が、ほとんど出ず三年生の方から「もっと、二年生がしっかりしろ！」という声も聞かれた。結局この会も、真剣味の欠けた会となってしまった。これは、一般生徒の無関心という事が一番の原因となり、まねいた結果であるが、執行部、進行係りのリードの仕方にも問題があったのではないだろうか。

とにかく毎度、繰り返し言われている無関心さもここで脱皮して生徒会というものにもっと関心を深めよう。

「校歌」なぜ歌われぬ

主張

どんな国にも国歌というものがあるように、どんな学校にもその学校の象徴ともいうべき独自の校歌があるのだしかし、校歌の現状は、先日行なわれた生徒大会にうかがわれたのではないだろうか。千四百人もの生徒がいるというのにいざ校歌の演奏が始まると声は小さく、ブラスバンドの演奏だけが大きく聞こえる次第であった。一番はまだしも二番三番となるにつれて、もはや聞きとれないぐらいになり生徒の口から出る歌詞もまちまちで特に一年生の声は小さかった。また多くの一年生は校歌を口にするのは初めてであったかも知れないが、入学してもう三ケ月にもなるのではないか。たった三ケ月と言われるかもしれないが、生まれたばかりの赤ん坊の体重が2倍になり笑うようになるのも三ケ月だ。したがって一口に三ケ月といっても決して短いものではないはずだ。しかし昨年もそうであった。校歌を知っている者といえば、芸術で音楽を専攻している者達だけであった。そして今でさえ正確に教えてもらったことがないしまた自分達で覚えようともしていない。それに生徒手帳の五ページに載っている楽譜も違うそうだ。そして改正しようともしていない。これでは歌えないのが当然ではないだろうか。また一年に何回歌うというのだろう。運動会の時と卒業式の時といった具合に数える程しかないのだ。今度の場合も「若戸大会で歌う」ために校歌を練習したもので、もし「若戸大会で歌う」ということがなかったら未だに忘れられていたであろう。

国家さえ歌われなくなった時代に校歌なんて歌われ続けていくものではないだろうか。

風紀などが乱れている今だからこそ、若高生であるという自覚のもとに、もっと校歌の意義を考えて、作詞火野葦平、作曲古関裕司による若松高等学校校歌の名に恥じないように、石炭の雲、玄海の波にまでも響きわたらせようではないか。

結局は現状維持

風紀

去る五月二十六日、三年四組の教室で行なわれた風紀委員会では

一、皮靴の使用について
二、上靴の使用について
三、女子の夏服について

この三項目について話し合われたここでは、その結果だけを述べよう。

まず、皮靴の使用についてであるが、これは生徒からの皮靴使用を許可してほしい、という要望が多くなってきたために取りあげられた問題である。しかし、白靴はすぐ底がすりきれて不経済だという声があったにもかかわらず、お金がかかりすぎるということや、白い靴ということさえ守られてない現在、皮靴の使用を許可する必要はない、白い靴の方が学生らしいなどの理由で否決された。

次に、上靴の使用についてであるが、この問題がなぜ取り上げられたかというと、現在上靴のかかとの部分を踏んで、スリッパのようにしている生徒が多くみられるため、上靴をスリッパに変えてはという意見があったためである。

しかしスリッパは、上靴に比べて歩く時に音が大きくて騒がしく行動しにくい、また体育のとき別に靴を使用しなくてはならないので不経済だなどの理由で否決された

最後に女子の夏服についてだが女子の夏服は、開襟シャツとなっているが、現在多くの女子がカッターシャツを使用しているので、カッターにしてはという声が女子の間で多くなっているため取り上げた問題である。その結果、開襟シャツのほうがすずしくスッキリみえるにもかかわらず可決されたしかし、現在カッターを着用している女子が第一ボタンをはずしていることに問題があるのだが、これについては話し合われないままに、この件は代議委員会を通過して、職員会の決定を待つだけとなっている。また、今後の風紀委員会の活動方針は、定時制の会長に協力を依頼して、盗難防止に努めるほか、男子生徒の帽子着用について、活動していくということである。その活動に期待したいものである。

三年と共に

今年は異常低温で夏になっても寒い日が続き、六月初旬にやっと初夏らしい光と風になったかと思うとすぐに梅雨に入った。長期予報によれば、今年の梅雨明けは遅いとか、憂鬱しい日はまだ続きそうである▼六月十九日の五、六限に、生徒大会終了後、校風問題をテーマに自由討論会が行なわれた。この数年来、特顕著になった校風の乱れを取り上げて対処すべきか話し合おうというもので、全校生徒の意見の集約の結果提出されたテーマであった。しかし、活発な意見の交換もなく何らの具体策も意見統一もみられないまま閉会となった▼確かに若高には自由がある。自由には規律がつきまとう。権利に義務を欠くことができぬのと同様である。規律を離れた自由はない。それは放縦にすぎない。生心徒得や校則は生徒自身のために定められたものである。制帽が不要ならば、討論会等でその旨を述べて、生徒大会で決議すべく意見を反映させればよいのであって、先の討論会では制帽賛成の声こそすれ、反対の意見は聞かれなかった▼今の近代的校舎が完成した当初、職員・生徒は内容の一層の充実を目ざし、その一環として、よりよき校風の樹立に取り組んできたが、その芽もこの数年来、枯れてしまった観がある。そして、ただ頽廃しきった無気力な空気が校内に漲む状態となってしまった。盗難は日常茶飯事となってしまった。学園にこのようなゆゆしい風潮があってよいものであろうか。校歌にうたわれた格闘の高い精神はどこにいってしまったのであろうか。「慎独」という熟語がある。「大学」の「故に君子は必ず其の独りを慎むなり」に由来し、人のいないところでも行ないを慎むという意である。唯識（ゆいしき）では人の心を九つの層に分けて説明している。第八識はアラヤ識で蔵識ともいう潜在意識のことで、人の行為が業（ごう）となって蔵されるところである。業識所感といってそれぞれの世界を感見するのである。久遠の光を求めては独りを慎みたいものである。

知らぬ第二水俣病

アンケート結果

若高生の社会問題に対する理解度を調べるため、去る6月17日に全校生徒を対象として、アンケートを行なった。

回収率はやや低調であったが、生徒それぞれの考えが反映され、内容のあるものとなったようだ。そこでアンケートの集録結果と、その問題の参考事項を記して、少しでも何かの役に立てたらと思う。

〔公害〕

公害とは、公衆に精神的・物理的な被害を与えることで、たとえば、騒音・震動・地盤沈下・大気汚染（スモッグ・悪臭）水質汚濁などの類がある。現在、公害国と呼ばれる日本で四大公害病といわれているものは、三重県の四日市ゼンソク・熊本県の水俣病・富山県神通川のイタイイタイ病・新潟県阿賀野川下流の第二水俣病である。

我々の住んでいる北九州市は大気汚染防止法指定地域となっている。皆、公害には多少なりと関心があるだろうが、果たしてどの程度の知識をもっているだろうか。

アンケートの結果では、公害病のところで、新潟県阿賀野川の水銀中毒と書いている人が多く、第二水俣病というはっきりした名称を知っていたのは全体の十パーセントに満たなかった。その他の病名も正確に書けていた人は少なかった。次に〝公害のため一地区で一時期において千人以上の死者を出した。そういう例が世界にあるか〟というのは実際に一九五二年にロンドンで四千人以上もの死者を出した公害事件があった。ほぼ半数の人が〝ない〟と答えていたが、北九州市というこの問題について考えよう。

〔沖縄〕

いわゆる戦後っ子の我々にとっては、この問題は切実に響いてこないであろうが、やはり現代社会において重大な問題である。そこでこれを取り上げてみた。

アンケートの集録結果は、予想を上回る良い正解率だった。しかし、今回アンケートに取り上げたものは、沖縄問題のごく表面だけだから、まだ知らない点も多いようだ。

〝返還をどう思うか〟という問いに対して、その答えをまとめると大体次のようなことになる。

・早く核抜きで返してほしい。
・返還するというのは、表面だけで本当はどうなのかわからない。
・住民の真の平和とは何かを考えてほしい。
・返還後の経済はどうなるのか。

と、いうところが圧倒的に多かった。その他、最近問題となってきた米兵による傷害事件の事について書いてあった。手放しで返還を良い、とする人もいたが、ほとんどの人が自分の考えを持っていたようだ。

〔交通事故〕

〝史上最悪の去年より何日早く死者何人を突破した〟というニュースをよく耳にする。このように年年増加しつつある交通事故に対する知識を調べてみた。

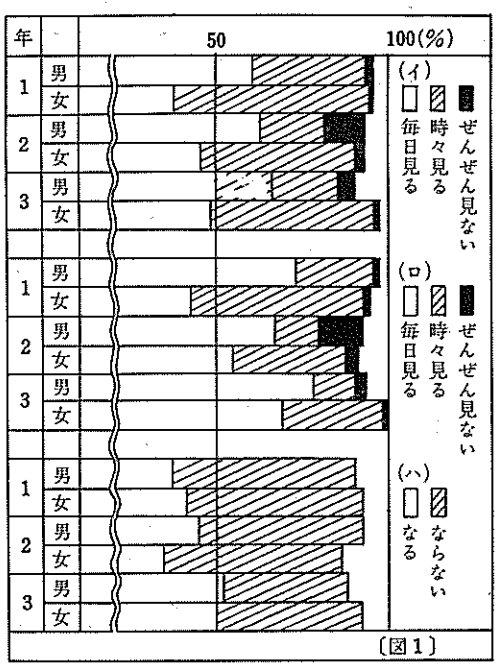
アンケートをまとめてみると〝今年に入っての交通事故による死者の総数〟〝一日平均の死者〟〝何県が多いか〟それぞれ三つの問いに対しても五十パーセントぐらいの人が正しい答えを出していた。

参考までに、今年上半期に起きた交通事故の総数は七千七百三十五人で、昨年同期より四百七十八人の増で、一日平均の死者は四十二・七人である。都道府県別にみると愛知県・大阪府・埼玉県・神奈川県・東京都があげられる。

右下の図一は、(イ)はテレビのニュースの視聴度・(ロ)は新聞を見るか見ないか・(ハ)は日常このような問題について話題となるかどうかについて、学年別、男女別に、解答者を百パーセントとして割合を出したものである。その結果、やはり高学年になるに従って関心度が高く、女子より男子の方が関心が高いことがわかる。

全体を通じて言えることは、日常色々なところから、自然と耳に入ってきている言葉は知っているが、深い知識はなく、正確に書くとなるとまだのようだ。現代社会に生きる高校生として、もっと外に目を向けよう。

※最後に今回のアンケートで、用紙を通じて多数非難の声がありました。アンケートの意図が書いていないとか、罫尾を命令形で書いているのでも、少し丁寧に書け、などでした。皆さんに不快を与えたことをこの紙面でおわびします。御協力ありがとうございました。



〔図1〕

楽しい職場生活

卒業してもう四ケ月半になりました。今の職場に入る時は、期待と同時に大きな不安がありました。

入社当時は、教えてもらう事を覚えようと緊張していましたが、つい失敗をしてしまい、小さな事でも随分気になりましたしかし、今ではこの職場にも慣れ、楽しく過ごしています。

私の勤務先は、少し長い名前で「日本木船相互保険組合」といいます。読んだらすぐわかるように木船の保険を扱うのですが、普通の保険会社と違って組合になっています。

従業員は男性十一人、女性八人ですが、女性は年齢が近いせいもあって、話題も合いとても仲が良く、気軽に何でも教えてくれます。

就職してすぐは、頭痛が悪いのですぐおたおたしていた私ですがみなさんに親切にしていただいたので、とても助かりました。

さて、私の仕事ですが、タイプライターと言うとあのスマートな英文タイプの方を思い浮かべるかもしれませんが、普通の会社がよく使っているのは、和文タイプライターといって、英文よりは大型で、その中に漢字やひらがなどが何百個と入っています。それを拾いだして打つのです。私が打っているのもそれです。〝タイプ〟といっても、それにかかりっきりというわけでもありません。手紙の選分けなどもやります。お客さんがいらした時に、お茶を入れるのも私の仕事の一つです。

失敗談を一つ二つすると、お客さんがいらっしゃったので、お茶をもっていくと部屋の中には誰もいなかった、お茶を入れている間に帰ってしまわれたのです。それから、入社してすぐまだ寒かった頃に、ストーブをつけたままにしていたらすすが出て部屋中真黒い煙だらけ……といった具合に、いろいろな失敗をしてしまいました。

それから、事務関係の仕事だとどうしても運動不足になるので、日曜日に運動を兼ねてみんなで遊びに行くのは、とても楽しみです。

社会に出て一番感じた事は言葉使いです。学校ではみんな同じ位の年の人ばかりでした。だが社会に出ると色々な年齢の人がいます。当然、目上の人に対する態度や言葉遣いに気をつけなければなりません。必要以上に丁寧にする事もありませんがいわゆるT・P・Oに合った態度をとることが必要だと思いました。それに人間関係も大事です。挨拶もある意味では潤滑油の働きをします。もうだいぶ油の滑りもよくなり、昼休み等は話し込んだり本を読んだりして学校生活の時とは違った意味で楽しい毎日を送っています。

四十四年度卒　国友和江

安保自動継続に入る

日米安全保障条約は、六月二十三日で、昭和三十五年六月から十年間の固定期限を満了して、先月の二十三日より自動継続に入った。しかし、今度の条約は条約そのものの効力は変わらないが、日本・アメリカどちらからでも一方的に解消できるような状態となった。

六月二十二日の午後より二十三日にかけて全国で反安保行動が展開され、警察庁の調べによると、二十三日だけでも集会などに参加した人数は六〇万人を越えたものとみている。この人数は、六〇年安保の際の五十万五千人を越えるものとなった。しかし、今回の反安保行動は、六〇年反安保行動に比べれば人数面で多かったかも知れないが、中身としては以前よりも規模は小さく、一般国民への影響はほとんどなかったと見てよい。

今度の特徴としては、高校生の姿が目立ったということだ。沖縄の場合は、特に多く、沖縄における反安保勢力の幅の広さが、ありありとうかがわれた。福岡県では小倉南高校で、以前デモと集会に参加して譴責処分を受けた生徒二人が、処分期間中にまた政治集会に参加して、再度譴責処分となった。また、修猷館高校では、安保自動継続に抗議するため、「六月二十三日学園ストライキ」を生徒会執行部に提案したが、六月二十三日の生徒大会で、反対多数で否決され、ストは行なわれなかった。

一九七〇年に突入した新安保に関する一番大きな問題として、沖縄施政権返還がある。昨年十一月の日米共同声明の時、一九七二年にその返還を規定したが、六月二十三日に、屋良琉球政府主席は自動継続に対し強く反対の意思を表示した。それゆえに、これからの動きが注目されるところである。

自動継続された新安保は、来年四月の統一地方選挙や、続いて六月に行なわれる参議院選挙などで国民の審判を受けることになろう。

調査書重視へ

大学入試

文部省は六月初め、昭和四十六年度の大学入学者選抜実施要項を決め、全国の国・公・私立大学に通知した。

まず、この入試要項は、従来にもまして「調査書重視」を強く打ち出していることが最大の特色である。これは、現在の大学入試の制度があまりにも学力検査重視の傾向を示し、これが今の高校教育をゆがめているという見地から、打ち出された方針である。

また、今までの大学入試の合否判定は、大学独自で行なう学力検査、高校から提出される調査書と健康診断書とを総合して選抜されていた。またこれに関連して、面接や小論文を課すことも認められていたが、あくまで補助的なものであり、これによって合否を決めるというようなものではなかった ところが、これが今度の要項では、学力検査や調査書と同等のウエートを占めてよいことになったのだ。このため、四十六年度入試では東大のように、面接や小論文を入試に取り入れる大学が昨年にくらべて多くなるであろう。

しかし、このように学力重視主義の入試制度を改善するために調査書を重視していくと「高校差」というものが、大きな問題となってくる。また、性格や行動、すなおさ、などの点が評価されるようになってくる。

夏期クラブ活動予定

夏休みを目前に控え、各クラブの夏休みの活動予定を取りあげてみた。

まず初めに体育部をみると、剣道・弓道部などは学校や高塚山で暑中けいこを行なう。山岳部は七月二十一日から三十一日まで北アルプス遠征で今から張り切っている。その他、練習試合やキャンプに出かけるクラブもある。試合は剣道―七月二十五・二十六日（九電体育館）　柔道―七月二十二・二十三日（戸畑中央商）　排球（男子）―七月二十一・二十二日（戸畑商）　〔女子〕―七月二十八日（若松高）　水泳―八月三十日（小倉高）　体操〔徒手〕七月三十・三十一日（大里高）　〔器械〕七月二十五・二十六日（東筑高）　陸上―七月二十一・二十二日（緑ケ谷）八月三十一日（平和台）などである。

文化部では、文化祭が九月五・六日に行なわれるのでその準備に忙しく、内容は各部さまざまで個性に富んでいる。地理部は郷土や北九州の水源について調べるが、他に対馬野外調査も行なう。英会話部は、英語劇「ハメリンの笛吹き」をするので、その練習に余念がない。化学・写真・新聞部は共同で公害問題に取り組む。

演劇部は八月二日から六日まで岐阜で行なわれる全国大会に出場する。

その他の活動としては、人形劇部の壱岐へ公演旅行、文芸部の八月上旬の創作旅行、写真部の九州学生写真連盟主催の城島高原合宿参加などである。又、玄海青年の家を利用するクラブも多数ある。

以上が各クラブの夏の活動であるこの夏休みの活動をきっかけに今後の活躍を期待したい。

とうしょ

目立つ長髪の乱れ

「東京のある町角で、おばあさんがバンタロン姿の女性（？）に声をかけて道を聞いた時、おばあさんは、振り返ったその女性（？）を見てびっくりしてしまった。」という話を聞いたことがある。不思議な話だがよく考えてみると「なるほど」と思われる話である。後ろから見ると、髪の長い女性に見えたのだが、さて顔をつき合わせて見るとひげをはやした正真正銘の男だったのだから、おばあさんがおどろくのも無理はない。

ここで、この様な話を取り上げるのは少しオーバーかもしれないが、若高の男生徒の中にも、その様に女生徒とまちがえる位に長く伸ばしている者をちょいちょい見かける。自分では、「カッコイイ」と思って伸ばしているのだと思うが、フケが出ていたりして、他人が見ると不潔そのものである。

また、一般の人達は長く伸ばした髪の若高生を見て、どう思うであろうか。きっと、「若高ばあさんは風紀が乱れていて、だらしない生徒が多いのだろう。」と思うであろう。いや、現在そういう風に言われているのを、私はよく耳にはさむ。

しかし、私がこういうことを言っていると、「そんなことは関係ない。」という、反対の意見の人もたくさんいるであろう。だが、それは全くその人達のエゴである。若高生である以上、若高の風紀を守らねばならない義務がある。我々が自主的に乱れをなおすか、それとも、生徒大会などで髪の長さを決めるかなどについて、充分討議し合ってもらいたいものである。早いうちに手を打たなければ、初めの話ではないが、若高は女子だけが行っている学校と思われてしまうかもしれない。

一年男子　S・G

手芸専門の店
しらき
若松区明治町

すぐれた品を より安く ご奉仕
若松 丸柏
本町3丁目 TEL ㊻1231

差別ある設備

必要ある全日・定時の協力

下校する時、校門の坂で登校してくる定時制の生徒とすれちがったことのない人はいないだろう。学ぶ時間は違うけれども、彼らも私たちも同じ若高生である。しかし残念ながら、全日制と定時制の間には、当然解決されねばならないさまざまな問題点があるように思われる。ここでは、そのうちのいくつかの問題をとりあげてみた。

設　備

最近、定時・全日制の間で体育館や特別教室などの設備に差がある、という声がよく聞かれる。また、ある定時制の生徒から化学や物理などでは、特別教室を使って実験をしなければ、ほんとうの授業にならない、という投書もあった。そこで新聞部では、その実態を調べてみた。

まず、体育館は使用しているがマットなどの大きなものを除く体育用具は全く別で、定時制の予算でまかなっている。また、化学、物理などの教室は原則として使えるが、実際には、管理が十分にいきとどかず、実験の時には専門の先生が必要、などの問題から使えないことの方が多いらしい。また我校の自慢の一つである図書館についても、第二図書室のみ使用が認められている。本は、そこにあるものを貸し出しているが、とく少なくてあまり役に立っていないらしい。「利用者が少ないのは私の蔵書の本よりも少ないので、やむをえないことだろう。」とはあるが定時制の先生のお話である。

登校する夜間生

これらのことについて、生徒の意見を聞いてみた。

―同じ若高生なのだから、当然同じように使用する権利があるはずだと思う。

―特別教室や図書館を、遅くまで使用するには、管理をする人が必要となってくるし、助手の先生がいなくてはいけないから、今のところはしかたがない。

だいたいこの二つの意見にわかれていたが、実際に勉強している定時制の生徒にとっては、しかたないではすまされないのではないだろうか。

風　紀

また、風紀問題については、全日制の生徒から、黒板の下におかずの残りが、机の中に手を入れるとバターが、というようなことがよくあるという不満の声が聞かれた。また上靴などの盗難についても、定時制の方でも注意されているそうだから、定時制の生徒の反省を求めるより他にしかたのないことだろう。だが、全日制も定時制の人達に迷惑をかけているということを、案外忘れているのではないだろうか。「机の中に何か忘れて帰ると、なくなっていることがある。」また「運動会やクラスマッチの前には、始業時刻を過ぎてもカバンや制服がおいたままの時がある。」などは、定時制の生徒の意見である。一つの机を二人で使っているという自覚をいつも忘れないようにして、お互いに注意し合っていきたいものだ。

以上あげたようないろいろな問題の中で、何年か前から全日制と定時制との間で、交換ノートが行なわれている。全く違った環境にいる同世代者同志が意見を交換することは、大いに意義があるといえよう。内容をさらに充実させお互いに理解しようとする態度が高まれば、風紀問題なども次第に解決するのではないだろうか。

マナー違反の生徒

売店

購買部によるパン販売は、先徒諸君がいつも利用して分かるように、個人購入のために、いつも大変混雑している状態である。毎日四時間目が終了するとともに、多数の生徒が売店に押しかける。このため、売店内は生徒でごった返している。このことについて購買部のおばさんに話してもらった。

ワリコンジャダメ！

「毎日クラスの厚生委員が注文しにくるのは全クラスの半分ぐらい。なるべくなら注文者が少ないために並ぶ者が並行は早い。しかし行されて行くにもかかわらはやまない。進行係からその場限りで一向に効きやがて、あちらこちらでが聞こえてくる始末での風紀・同好会のクラては、生徒に一番身近あるにもかかわらず、なく限りられた人達、れからの生徒会の中心してくれない」あるいは「全校生徒が集まるのだから混雑するのは当然だ。しかし、購買部の流れをスムーズに行なうには、生徒の反省と協力が必要だと思う。」というような意見を出している。

購買部について執行部は、非合理的、非愛情的、非人間的販売といってプリントを配布したが、このことについて生徒にインタビューをしてみた。すると、「全校生徒が押しかけるのだから当然だそれに一方的に攻めるのはひど過ぎる。生徒会がどうにかすべきだと思う。」など、生徒と執行部の意見の食い違いが聞かれた。

しかし、このプリントが配られて一ケ月余り過ぎたが、以前の売店と現在の売店は変わっていない。生徒自身の問題であるはずのものをどうして生徒で改めようとしないのか。生徒の協力と反省とがあれば、今すぐにでも本当の購買部ができるのではないだろうか。

1ケ月後に迫る

演劇全国大会

演劇部が西日本高校演劇コンクールで、第一位の栄誉ある成績をおさめてからはや七ケ月が過ぎ、今また全国大会を一ケ月後にひかえ、その練習ぶりはますます熱を加えてきている。

一年十三名、二年十名、三年七名―総部員数三十名のうち、全国大会にキャストとして出場するのは二年の男子二名と女子三名、それに三年の男子三名の計八名。

出品作「殿草」は、かつての上海事件で肉弾三勇士と呼ばれた三人の兵士の話を事実に基づいて脚色したものである。この劇を創作するにあたって最も苦心したのは、脚本から演出まで自分達の手で作り上げられた創作劇だということについてだそうだ。戦争の悲惨さと、極限に立った人間心理の微妙を動きが現実の肉体と幻想的な心とに分かれ、心が肉体になったり肉体が心になったりしながら、そのときそのときの心理の移り変わりを交互に対照的に描き出している。

全国大会は八月二日から六日まで岐阜県において、全国から選び抜かれて集まった十二校によって競われる。その岐阜までの旅費及びその他の費用は学校から三十万円出るが、例年どおりカンパをするので、御協力をお願いしたいと語っていた。

とこうで部のモットーは「学校の中のクラブである。」ということだそうである。部員が部にひきずり回されないように注意を払っているのがうかがわれる。

一年生も、文化祭出品作品「英雄」の練習に毎日余念がない。夏の太陽と青空の下に今日も発声練習の声が響いてくる。全国大会での活躍を大いに期待したい。

生徒教師間の自主交流を

〝断絶〟、最近この語感からしてのような答が返ってきた。て重苦しい言葉が、社会的問題として、非常によく取り上げられている。

さて、若高の場合はどうだろうか。今年度開かれた二度の生徒大会においても、教師の身勝手さという事柄が議題にあがり、生徒教師間で、激しい討論がかわされた。その結果某新聞に掲載され、生徒の間に教師に対して、不信感が充満しているようなところさえ感じられるようだった。

今回の若高における、いわゆる断絶感に関するインタビューの結果をみると、異様な盛り上がりをみせた第一回生徒大会に反して、インタビューの対象となった生徒の大多数が、生徒教師間の断絶を否定した。しかし、先生に対する不満は?という質問に対しては次のことについて生徒にインタビューをしてみた。すると、「全校生徒が押しかけるのだから当然だそれに一方的に攻めるのはひど過ぎる。生徒会がどうにかすべきだと思う。」など、生徒と執行部の意見の食い違いが聞かれた。

しかし、このプリントが配られて一ケ月余り過ぎたが、以前の売店と現在の売店は変わっていない。生徒自身の問題であるはずのものをどうして生徒で改めようとしないのか。生徒の協力と反省とがあれば、今すぐにでも本当の購買部ができるのではないだろうか。

先生宅訪問

絵を描くことが趣味

―大庭武先生の巻―

新学期が始まって二ケ月余りたち、一年生もだいぶ学校に慣れてきた六月十四日、我々新聞部員五名は、体育科担当で、現在三年七組の主任をしておられる大庭武先生のお宅を訪問した。

宮丸のバス停から少し離れた静かな住宅街に先生のお住まいはあった。先生に迎えられた我々は、早速質問を始めた。

―御出身地は―

若松生まれの若松育ち。

―御出身校は―

若松小学校―石峰中学校―若松高等学校―日本体育大学。つまり君達の先輩に当たるわけだ。

―先生になられた動機は―

中学校の時、教師になろうと思った。体育の教師になろうと決心したのは高校二年の時。吉永先生の御主人(当時我校の体育科の先生)の影響が強いね。

―授業中、何をモットーして指導されていますか―

「質実剛健」それと、男子は男子らしく、女子は女子らしく。

―学生時代の思い出は―

高校時代のファイヤーストームが楽しかった。大学時代、毎週フォークダンス集会があり、一度行ったけど、その時にバレー部の女子と踊り、子と踊り、あまり背が高いのに圧倒されて、それ以後行く気にならなかった。(参考までに先生の現在の身長一六六センチ)

―最初に教えられた女子は―

三年生だった。感じ悪かったな。今も女子を教えるのは苦手。

―若高生をどう思われますか―

運動面はそれほど弱いとは思わないが、精神的に弱いね。それに運動クラブに入部していなくても運動をもっとしてほしいそのために、体育委員会は、体育館の使用法などについて考えてほしいな。

―長髪をどう思われますか―

嫌いだ。学生らしく、感じの良いのがないね。あまり流行を追いすぎているみたいだ。

―御趣味は―

スポーツ。(やはり)それに絵を描くこと。でも、ここ二、三年描く暇がなくて残念だ。

―プロ野球の八百長試合についてどう思われますか―

プロ野球には、余り興味を持っていないが、不正が行なわれるなんて、スポーツをする者にとっていやな話だ。これは、スポーツの冒とくだ。こんなことがあると見る気もしない。

―女性を意識したのはいつ頃からですか―

中学の頃から。高校一、二年の頃はクラブの練習がきびしかったので暇がなかった。三年生になって自由になってきたので

―いつ頃からです―

まあ、大学時代からにしとこう。(先生の表情ではもっと以前からでは?)

お酒については、このくらいにして、奥様に質問をいくつかすることにした。

―御見合結婚されて、三ケ月ですけど、先生の第一印象を―

忘れてしまったわ。(先生の顔を見ながら)

無口な人ですね。自分の気にいらないことがあるとなお無口になりますね。

―亭主関白になる可能性は―

大いにあります。(声を大にして)今でも夢主関白です。

―奥様の趣味は―

洋裁です。スポーツは全くしません。

先生はよくお酒を飲まれるということですのでそちらの方をいくつかお尋ねしてみた。

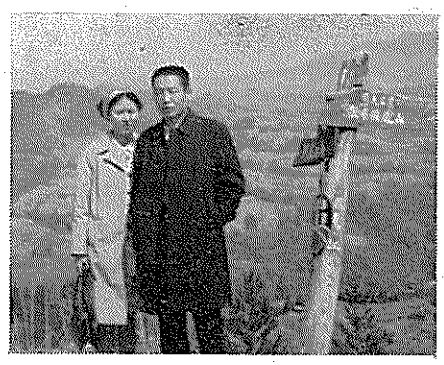
―一日にどのくらい飲まれますか―

おちょうしで三本程度。でも最近日本酒はあまり飲まない。

―先生を何と呼ばれますか―

顔を見るから呼ばなくてすみます。(先生は奥様を「おい」と呼ばれるそうだ)

二時間ほど話をし、日体大の卒業アルバムなどを見せていただき御二人に送られて失礼した



新婚旅行先の御二人

DPE カラープリント 撮影
ダイワ写真工芸
若松区上原町（若松高校前）
TEL (77) 3173

龍そば
本町銀座
TEL ㊼ 4320
TEL ㊼ 4047

北九州市若松区本町三丁目6―8
金豊堂楽器店
本町店　若松区本町三丁目6―8　TEL㊻3390
明治町店　若松区本町二丁目　TEL㊼4114
中川町店　若松区本町二丁目　TEL㊻1847

考えよう十代の行動

高校生の遊びとは

知っていますか　生徒の実態

社会研究部　プラカルト十組　高井裕二　本A

吸いなよ
これも好物なんだろう。
これも好物なんだろう。
販売競争の真っただ中で生まれたハイオクタンの油だぜ。
お前さん好物なんだろう。

企業B
役人さんはつぶやいた。
何だこの川
普通の汚ねえ川じゃないか。
誰かが河口で釣りをしているぜよしなよ。よしなよ。
魚を食べちゃいけないよ。
補償は雀の涙だぜ。

企業C
お月さんまでけぶってる。
高い煙突ぶっ立てて、街から空を追い出した。

人類で初の宇宙遊泳を試みたソ連の飛行士が宇宙空間は底のない井戸のようだと語ったという。

暗く無限に深い井戸――昨年、ぼくは激しい嘔吐の発作にたびたび襲われ失神と発狂の極限に近い苦しみをなめた。それだけに徹底した自己検証をやった時、戦後に生きる教師としてヘーゲル、サルトル、丸山政治学誌を縦軸とするなら、日本人の精神構造に根強いムラ（村）意識、漱石や最近の吉本隆明等を横軸として生徒に〈問い〉かけた自分自身に、そのための言葉なり論理、つまり知識の蓄積はあったとしても民主々義を内側から充填すべき哲学――つまり人間の生死としての問題に自分の言葉で苦しんでいなかった事に気付いたのだ。ぼくは、まさに恐怖し、嘔吐が幾重にもこだますのを意識しながら、何とか一滴の水にたどり着くまでは死ねないと何度か祈ったものだ。――健康の回復しかかった今、ぼくはこの恐怖による切実感を離してはならぬし、教師である限り生徒と共に、〈問い探り〉つづけたい。

ところで、青春とは、単にニキビが出始め消失するまでといった人生上の期間を指すのでなく「人生」に対する根源的な懐疑の感覚の持続によって、真実の孤独と、だからまた真実の友情を培う事のできる「時」といえまいか。さすれば、Dボンヘッファは「人々の思考の、宗教的内至形而上学的傾向の稀薄化した社会」を「成人した社会」と言ったが、まさにニキビ面の若々しい肉体をもつ若高生が、成人どころか老衰しているのも現代の怪奇といおうか。慈愛に満ちた微笑と挨拶に、ふと心が和むと、それが生命保険の勧誘員だったりする現代に〈俺たちの責任じゃないや〉と、感覚的○×判断で甘ったれるのは禁物だ。

若たちの周囲には、かって姑に懸命に仕えたのに、自ら姑となったとき仕えてくれる者がいないからと、仕え仕えられる疎外関係を固執する大人たちが多勢いるし、何時またヒットラーが若たちの前で拳を振り上げて演説をしていないとも限らぬのである。彼は「わが闘争」の中で叫ぶ――民衆とは理知によって物事を判断をするのでなく、女性的な感情によって動くものであり、従って指導者に要請される資格は、教化啓蒙よりも、いかに大衆に宣伝し大衆を操縦するかの能力にある、と多くの識つ〈らな〈呼びかけ〉の氾らん。それ故に徹温的な日常性の魔力におおわれて稀薄化せざるをえないところに、今日の状況が私どもに強いる底のない不毛性の根源がある。

そこで、若高生の間には、今どんな遊びが流行しているのかということを、少し取りあげてみた。まず、あげられるものとしてはボーリングであろう。これは誰にでも楽しめるので、殆どの人がやっているのではないだろうか。

このほかに、一部では、玉つきパチンコ等もやっているらしい。

これらの娯楽場への出入りは生徒心得で禁止されている。しかしそれを知らないのか、堂々と、しかも制服を着用して出入りしている。娯楽場も、別に高校生に対して注意することなく、ボーリング場等では、学生割引きまである。パチンコ店等では、よく高校生同志の乱闘が起こるらしく、好ましくない状態である。

しかし、今の高校生は殆どが長髪で体格も成人と変わらないので

隨筆

底のない井戸の中で

白石純一郎　S45.6.16記

優勝まであと一歩

新学期も始まって間もなく、各体育クラブの大会がいっせいに開催され、我校の体育部も大いに健闘して、結果は次の通りである。

①大会名　②大会の場所　③大会名　④結果

ラグビー部――①六月六日　②平和台福岡高校　③九州大会　④九対三で惜しくも負けてしまった。

ハンドボール部――①六月十三・十四日　②明善高校　③インターハイ　④決勝で負け惜しくも準優勝

庭球部――①六月六・七日　②柳園　③九州大会　④団体では三位、個人では入賞できなかった。

バスケット部――①六月七日　②福岡中央高校　③県大会　④逆転負けで入賞できなかった。

柔道部――①六月六日　②門司商等学校　③県大会　④三対一で一回戦で負けてしまった。

剣道部――①六月二十一日　②福岡城南高校　③県大会　④第二回戦で惜しくも三池高校に敗れた。

バレー部――①六月十三・十四日　②博多・城南　③インターハイ　④男子は地区で準優勝、県では二試合で負けてしまった。女子は惜しくもベスト十六位に入賞できなかった。

野球部――①――　②――　③若高　戸畑　④若商では四対〇で勝つ、戸畑でも四対〇で連勝。鏡上中部では五対〇で残念ながら優勝をのがしてしまった。

水泳部――①六月六・七日　②小倉高校　③北部水泳大会　④団体で六位　個人では三年のバタフライ二百Mが五位、百Mが六位　二年の背泳では二百Mが二位、百Mが一位、一年ではバタフライ二百Mが四位、平泳ぎ二百Mが六位というような成績で、リレー四百Mでは五位、八百Mは六位、メドレーリレー六位であった。

陸上部――①五月二十五・二十六日　②鞘ケ谷　③北九州大会　④千六百Mは七位、八百Mは五位　砲丸投げで中村さんが一位・二位を獲得し、和歌山全国大会に出場するそうだ。

結果はいずれにせよ、現在、各部では、次回の大会に備え、一生懸命練習している。今後の、各部の練習成果を大いに期待したいものである。

河童の釘

〝郷土伝説〟より

若松の代表的観光地である高塔山。その頂上には、日本でも珍しいといわれる青中に釘の打ってある河童地蔵が安置されている。

これは、火野葦平氏の宣伝によってかなり有名になっているが、昔から色々と語り伝えられている女子は惜しくもベスト十六位に入賞できなかった。

例えば、地蔵堂のそばにある観光案内の立札には、「火野葦平氏の紹介によって有名な河童地蔵の伝説」なるものが記してあるが、これは、若松に伝わる伝説ではなく火野氏によって、昭和十五年に発表された「石と釘」の小説のストーリー、つまり、フィクションなのである。

では、本当はどうなのかというと――昔から、こんな話がいい伝えられている。

「庄屋がある時、池で馬に水を飲ませ、つないでおいて家に帰ったところが、馬の姿がなくなっていた。庄屋は驚いて、馬を探したが、どこにもいない。ふと池の中へ引きずりこもうとしている河童を見つけた。庄屋は、河童を許してやりたいが、馬がいなくては困る。庄屋は、河童に向かって、馬を返すように言ったが、河童は、馬を池の中へ引きずりこもうとして力およばず、逆に庄屋まで引きずってこられたのである。庄屋は、河童を許してやりたいが、馬がいなくては困る。庄屋は、河童に向かって、馬を返すように言ったが、河童は、馬を池の中へ引きずりこもうとして力およばず、逆に庄屋まで引きずってこられたのである。その時、絶対に村の者を池に引き込んではならぬと約束させた。

そして、高塔山の地蔵の背に釘を打っておくから、その釘のある間は絶対に悪戯はするなと念をおし、聞いてやった。河童は毎年一年の終わりに釘の有無を確かめに高塔山に登って行き、釘があるのでいつも首をうなだれ、すごすごと山を下ってゆくのであった。」とまあこの様にいわれているのだが――。

さて、真実はどうであるか、これは計りがたい。

しかし、若松に住んでいる者と、河童にまつわるこれらの話があることを知っておいてもいいのでは？

編集後記

プールにでも飛び込みたくなるような暑さが続く今日この頃。

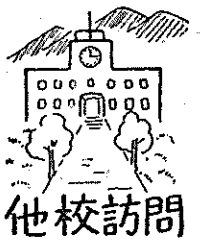
明朱考査も無事に終わり、ホッと一息。

それに、もうすぐ楽しい夏休み、指折り数えて待っている人もいるのでは？

さて諸君、この新聞は、別に変わったものでもない礫陵新聞一一四号であるが、今号は新入部員がハッスルし初めて記事を書いたもので内容としては、安保・大学入試・高校生の遊びなどを取り揚げてみた。全部員が力を合わせ汗を流し取材をして出来たのである。ゆっくり御覧下さい。

自覚ある行動で前進

――戸畑商業高校――

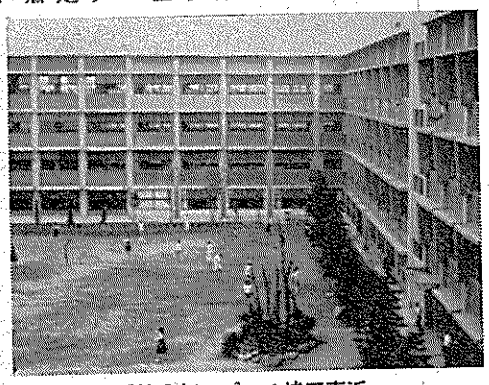


他校訪問

六月十三日、曇り、我々新聞部員のぱは、戸畑商業高校を訪れた。

開校以来わずか八年、校舎は真新しく、周囲にはツツジなどの花々が咲きほこり、初夏の香りを漂わせていた。特に体育館は、今年の五月に建設され、館内で練習をしていた部員達も「新しい体育館なので、やりがいがあります。」と語ってくれた。また、八月にはプールも出来る予定で、その工事も着々と進められていた。しかし、運動場が狭く、雨が降るとすぐにでこぼこになるので、クラブの練習や正課の体育の時は非常に不便であるらしい。そのため野球部などは、毎日の練習に九州工業高校の横に設けられている、第二グランドまでマイクロバスで出かけている。

全校生徒合わせて八七八人で、そのうち男生徒が二七八人と、総数のコ三分の一にも満たない程である。また、クラブ数は、体育、文化クラブ合わせて三十三、それらに同好会として囲碁や弓道がある。中でも昨年、若高たクラスは、一年生の時から経営科、文書科、貿易科に分けて編成されている。それらのうち経営科がさらに経理と営業に、文書科が、事務と秘書とに分けられていて、選択者は、経営科の経理が一番多い。これらは、実社会に出てすぐに役に立つ



開校8年・プール竣工真近

特別教室は、商業高校だけあって、電話や銀行などの窓口においての、応対の仕方などを実際に練習する実践教室、タイプライターが五十台備えつけられているタイプ室や、いそうだ。我々は、多いに見習う面があると思われる。また、男女交際には学校側から禁止が出ていないためわりに自由に行なわれていて、なかなか楽しいムードである。

最近、生徒大会が開かれ、そこで髪型は、男子が長髪を許可され女子の方は、肩に触れるまでになるときちんと結ぶようになっている。また、通学時のシューズは、皮靴で黒と指定されている。遅刻等は、ほとんどなく若高のような盛況も少なくなるそうだ。

クラブ数は、体育、文化クラブ合わせて三十三、それらに同好会として囲碁や弓道がある。中でも昨年、若高と賑合をした野球部や全国大会にまで出場した陸上部、それに校舎の囲りや校舎内をいつも花で包んでくれる園芸部などが盛んに活動している。

生徒会改選は年一回。執行部の活動が活発であるため生徒会とホームルームとの結びつきはあるものの、やはり教師の権力が、話し合いの結末をつけている。このように断絶があるということは、両者がお互いに理解し合っている(?)ということであろうか。

次に風紀面として、髪型は、男子が長髪を許可され女子の方は、肩に触れるまでになるときちんと結ぶようになっている。また、通学時のシューズは、皮靴で黒と指定されている。遅刻等は、ほとんどなく若高のような盛況も少なくなるそうだ。

新刊雑誌
辞書参考書
石松書店
本町銀座ＴＥＬ㊻2415

正しい視力を提供する
各科眼指定
アイチ眼鏡店
本町三丁目8―24　ＴＥＬ㊻3312

本格派テクニックの店
アサヒラボ
本町三丁目